

砲狩りを取りあげ、当時の原爆にも相当する鉄砲を、日本人が捨て、忘れたことから、今日世界が原爆を捨てる事が出来るはずだというはげましにも、明治になって、小国町の山奥でひっそりと暮っていたキリスト信者部落を、全員殺して消滅させていった事実を掘起した一町医者の記録とも出会った。

私の担当している健康科学の領域では、マラリアについて教えられた。十七世紀になって手に入れたキニーネは、全世界のマラリアによる苦しみから救ったが、これは奴隷商人の手をはばんでいたマラリアの壁を取

りはずしたことになる、アフリカの人々の不幸のはじまりにもなったという視点が欠けているのを感じさせてもらったのは、図書館の一隅でみつけた図書からである。感謝している。

図書館には随分と楽しませてもらっているし、今後も死ぬまで楽しめるよう、目が見えて、文字が読めて、本が楽しめます様に神佛に願っている。

(ひとし たいぞう 教養部教授 健康科学)

注1 火砲の起源とその伝流 有馬成甫 吉川誠文館 1962

注2 鉄砲をすてた日本人 一日本に学ぶ軍縮 ノエル・ペリン著 川勝平太訳 紀伊國屋書店 1984

注3 肥後細川藩 幕末秘聞 河津武俊 講談社 1993

注4 世界史の中のマラリア 橋本雅一 藤本書店 1991

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介11

重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

工藤敬一

今回は近世の阿蘇社領の成立に関わる文書を紹介する。戦国末、阿蘇勢力は衰退し、天正14年(1586)には山上の諸坊(現在の草千里辺にあったもので古坊中と呼ばれる)も島津氏によって焼き払われ、阿蘇氏の家臣も山上の衆徒・行者も四散してしまい、中世阿蘇氏武士団はほとんど壊滅状態となった。加うるに文禄元年(1592)大宮司惟光は、豊臣秀吉から梅北の乱(加藤清正の朝鮮出兵の最中に、島津義久の家臣梅北国兼が佐敷城を占拠した事件)に関わる責めを負わされて祇園山(花岡山)で殺害された。

加藤清正是、慶長4年(1599)領国支配の安定を考え、阿蘇社および諸坊の再興を図った。〔A〕(西厳殿寺文書)は「寺社居屋敷ならびに沙弥一人宛の堪忍分」として、つまり衆徒・行者らが坊舎を興し還住するよう黒川村内の地を付与したものである。この黒川村が今日の阿蘇町坊中である。さらに慶長6年清正是神主又次郎(惟光の弟の惟善)に対し、宮地・坂梨・竹原(いずれも一の宮町)に358石3斗4升の石高の土地を宛行っている。〔B〕はその宛行状、〔C〕は目録である。いずれも「履道應乾」の印文をもつ台形の清正の黒印が捺されている。

〔D〕は加藤氏改易のあと、寛永9年(1632)肥後の大守となった細川忠利の判物(花押をもつ宛行状)である。宮地・坂梨・竹原・黒川の所々989石余とあるので、さきの清正の2通の宛行分を加えたものとみられ



(佐藤進一著「古文学入門」より転写)

〔A〕 加藤清正判物(西厳殿寺文書)

(題) (天正十五年)

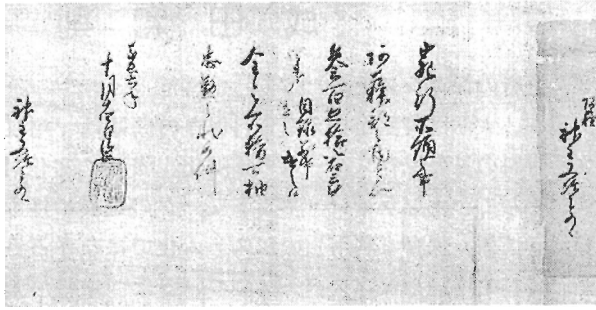
抑當社退点之儀、先年大閣御所御下向之御郡中之者共邪心を相構儀、神主一人之科二究御成敗候、其付而當社も破滅候、彼邪心之者御成敗之上者、阿蘇大明神破滅不仕様二可被、仰付哉と違上聞、當社造宮等并坊中をも取立、社領等可申付と雖念願候、高麗に陣に付而押移候、然處、大閣様御世界二依而其志も無詮候、然者、爲冥加、豊國大明神を當分領中へ灌頂可申覺悟候、令灌頂事成就之上にて受神明、其上を以神領等をも可申付之条、各相集、阿蘇大明神之行等、先規之姿を可有勤行事尤候、然時者、寺社居屋敷并沙弥一人宛之堪忍分、黒川村内を以可申付之間、各令還佳、少庵をも可被結事肝要候也、

慶長四年十一月廿九日 清正(花押)

長善房 阿蘇大明神 寺社中

る。同日(寛永10年正月7日)付の目録(〔E〕)が西厳殿寺文書の中に見える。その後貞享4年(1664)12月、当時の藩主細川綱利は新に蔵原村(一の宮町)の

100石の地を寄付(その目録は5年2月18日付)、以後あわせて1089石余が阿蘇社の領知高となり幕末に及んだ。



[E] 阿蘇宮領總目録(西巖殿寺文書)

(折封ウハ書)

阿蘇宮領總目録	淺山修理亮
阿蘇宮社領高九百八拾九石六斗壹升之内	田中兵庫助
配分之目録	横山 助進
高三百五拾八石三斗四升	神主
高百八拾六石五斗八升	社家中
高百八拾九石貳斗	衆徒中
高百六拾石八斗	行者中
高四石七斗	御神事領
高參石四斗	箱宮分
高壹石五斗八升	鐘撞
高五石	大山寺
以上	
右任先 無相違御寄進之旨、被仰出候間、如前之可有配當者也、	
寛永拾年正月七日	横山 助進(花押) (〇黒印)
	田中兵衛助(花押) (〇黒印)
	淺山修理亮(花押) (〇黒印)
	(阿蘇友貞)
	神主又次郎殿
	長善坊
	阿蘇宮 寺社中

なお、細川忠利の判物 = [D] と同日付の目録 = [E] が、阿蘇家文書と西巖殿寺文書に分有されるなど、本来一体であるべき関係文書が分有されるにいたった理由は、今日の西巖殿寺文書が文久元年(1861)に衆議によって軸装して宝庫に納めたことが記録されているので、それ以前、おそらくは19世紀初頭に、阿蘇惟馨が『阿蘇家伝』の編集のため関係史料を集めた際に生じた混乱によるのではないかと思われるが、なお検討の要がある。

(付記) これまで「東光原」第2号の鎌倉時代はじめての「北条時政書下」から始めて、11回にわたって附属図書館所蔵の阿蘇家文書の一部を紹介して来た。もちろん他にも紹介に値する文書は少なくないが、今回の江戸時代の分まで時代をおって下って来たので、これをもってひとまず打ちどめとしたい。なお阿蘇家文書34巻は、文部省および大学当局の理解を得て、ほぼ毎年2巻ずつ重要文化財にふさわしいみごとな太巻の軸装として蘇生っている。なお現在過半を残しているが、順調な進捗を期待したい。

(くどう けいいち 文学部教授 国史学)

[B] 加藤清正黒印状

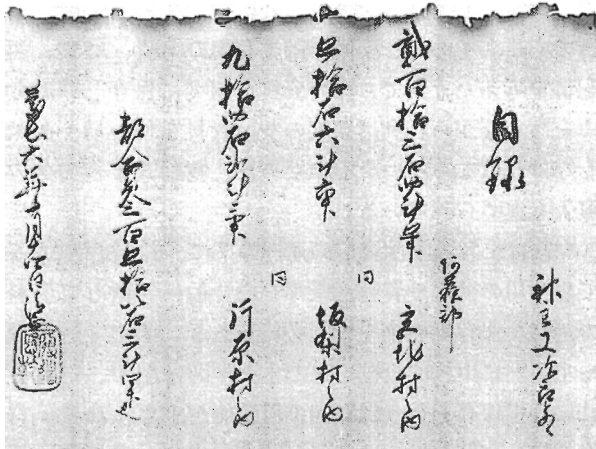
(折紙ウハ書)

「阿蘇 神主又次郎とのへ」

宛行所領之事、阿蘇郡之内を以て參百五拾八石三斗四升 有之 遣之候、全令所務、可抽忠勤之状如件、

慶長六年 十月十四日 清正 (〇黒印)

神主又次郎とのへ (阿蘇惟尊)



[C] 加藤清正所領充行目録

目録

神主又次郎とのへ

阿蘇郡

一、貳百拾三石四斗五升 宮地村之内

一、五拾石六斗六升 坂梨村之内

一、九拾四石貳斗三升 竹原村之内

都合參百五拾八石三斗四升也

慶長六年十月十四日 清正 (〇黒印)

本学教官寄贈著書紹介

巨海玄道(教養・物理)

物理教育とその周辺Ⅲ 地震に学ぶ

日本物理学会九州支部 1995.8

(1995年度夏季シンポジウム)



Kumamoto University Library Bulletin, No.12, October. 1995

● 図書館長に就任して

● 図書館への思い

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介11

● 重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

● 情報サービスと資料保存



[D]
細川忠利判物

為寄進肥後國阿蘇宮社領事、

任先規阿蘇郡之内宮地・坂梨・竹原・

黒川村所々都合九百八拾九石余

目錄
別番 今寄附之訖、以各配分、相勤

神事・祀祭之禮、不可有懈怠者、國家

安泰之旨、可被抽丹誠之状如件、

(寛永拾年正月七日 細川肥後少将忠利(花押)

(阿蘇友貞)
阿蘇宮 神主又次郎殿
寺社中